

「いのち」の教育実践事例

☆ 鮭川村の実践 (鮭川村立鮭川中学校)

生命の継承の
大切さに関する教育

— 産まれた自分から 命を育む大人へ —

義務教育を修了する前に、性に関する正しい知識やいのちの大切さを、そしてこれからの人生に見通しを持って自分の未来を考える実践を紹介します。

○ いのちの講話

- 中学3年生を対象に、県立新庄病院の助産師を講師に迎え、「いのちの講話」を行っている。

【内容】

- いのちの始まり（受精・妊娠・出産）
- 思春期の性
- かかわりの性（性感染症、デートDV、望まない妊娠をしないために）等

助産師ならではの講話内容で、出産時の映像や胎児が自然に行う誕生時の工夫を示した図解資料などの貴重な資料を活用して行っている。生徒は、胎児の能力の高さに驚きつつ、母親や家族の大変さや出産時の喜びを感じるなど、いのちをつなぐことへの尊さを意識する大切な機会となっている。

○ 産道くぐり体験

- 産道くぐり体験を通して、自分の生まれてきたときのことを想像し、生命誕生の素晴らしさや大変なことをやり遂げた自分自身に誇りと自信を持てるようにすることを目的としている。

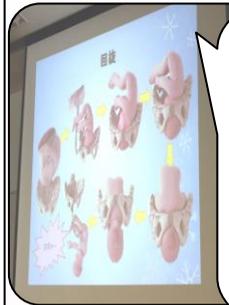
体験を通して自分の存在意義や周囲への感謝を感じたり、産道の役割を通して、産む側（母体）も大変であることを学んだりするなど、いのちの尊さを実感できる取組みとなっている。

産まれたばかりの頃から大きく成長し、思春期から青年期へと移り変わる、性の主体者となる時期に、必要な知識や態度を学び、いのちについて深く考え、今までを振り返り、自分の未来を考える大切な機会となっている。

今日の講演会で、私たちがどれくらい支えられて生きているかを改めて知ることができました。



産まれるとき、骨盤の間を何度も向きを変え移動することが、実際に体験してとても大変だと感じた。そして大変なことを乗り越えた後に、生きるために産声をあげる（肺呼吸を開始する）ことにとても感動しました。



産道くぐり体験を通して、たくさんの試練を乗り越えて産まれてこれたんだと思いました。



産まれてきてくれて、
ありがとう！